

## 令和6年度第3回鶴岡市地域コミュニティ活性化推進委員会 会議概要

- 日 時：令和7年2月17日（月曜日）10時00分～12時00分
- 会 場：鶴岡市役所別棟2号館 21・22・23会議室
- 会場出席者：鶴岡市地域コミュニティ活性化推進委員会委員 11名  
武田 真理子委員長、佐藤 健委員、宮田 廣喜委員、高橋 俊一委員、  
太谷 弘子委員、今野めぐみ委員、清野 康子委員、渡邊 健委員、  
田村 廣実委員、林 雅秀委員、遠藤 敬委員
- 市側出席者：市民部長ほか鶴岡市地域コミュニティ活性化推進委員会幹事、事務局 26名  
幹 事：伊藤 慶也市民部長、菅原 青地域振興課長、  
加藤 明防災安全課長、藤澤 実環境課長、  
玉津 卓夫廃棄物対策課長、齋藤 芳地域包括ケア推進課長、  
阿達 和夫消防本部警防課長、今野 新一学校教育課長、  
沼沢 紀恵社会教育課長  
事務局：コミュニティ推進課、地域庁舎総務企画課職員
- 公開・非公開の別：公開
- 傍聴者の人数：0人

（10時 開会）

- 1 開 会 （全体進行：コミュニティ推進課長）
- 2 挨 拶 （挨拶：委員長）
- 3 協議・報告 （座長：委員長）
  - (1) 鶴岡市地域コミュニティ推進計画（第3期）  
基本理念・目指すコミュニティ像（案）について 資料No.1

（事務局）資料No.1 について説明

（A 委員）

基本理念の「一人ひとりが地域へ誇りや愛着を持ち」という文言が、資料No.1の参考にした考えから結びつくのか、納得できなかった。後半部分の「つながりを育む」に問題はないが、切羽詰まった段階のコミュニティに子どもたちも属しており、提案された基本理念は違うのではないかという印象を持った。

平成25年の基本理念では、「市民がまちづくりの主役として個性溢れ豊かさを実感できる地域社会を築く地域コミュニティの構築」とあるが、市民がまちづくりの主役として本当に活躍できたかを考えるとその通りでない。「地域へ誇りや愛着を持ち」というのは大事なことだが、それ以前に関心を持つことが必要だと思う。

他市町村の地域ビジョン策定作業に参加した際、人口は鶴岡に比べ10分の1なのに鶴岡市と同じようなことを行わなければならない状況を知った。もし、鶴岡市の人口が10分の1になった時、鶴岡市の職員やコミセン職員等が同じ規模で動くことを考えると、もう少し分かり易くてもいいかと思う。

（B 委員）

基本理念は、一番上にある目標であり「一人ひとりが地域へ誇りと愛着を持ち」のくだりは、地域コミュニティ活性化推進委員会の中ではベースになってきた考えかと思う。抽象的なので達成できたかはわかりにくく、どのように実行していくのかが必要だと思う。

また、目指すコミュニティ像の3つ目に「様々な連携協働で地域課題を解決する」とある。鶴岡市内でも人口減少が激しく進んでいる地域もあり、もはや自分の地域では課題解決ができないというところもある。外部と様々な連携をとっている地域もあり、連携、協働の部分をより具体的に考えていかないと立ちゆかなくなると思う。集落の目標として活性化という看板を下げたという話も聞き、連携については強化していかないといけない。

(C 委員)

町内会、集落において、我関せずみたいな住民も大勢いる。市民が行政に任せるだけではなく、地域づくりを担う一員だという、意識改革が必要ではないかと思う。

全国的に人口減少、少子高齢化、空き家問題、加えて単身一人暮らしが大きな問題になっており、同じような悩みや課題がある。毎回同じような内容でまとめるのもいいが、より実効性や鶴岡独自の特性を持った計画を立てるべきではないかと思う。

また、昨年9月13日の意見交換会で若い人たちの意見を聞いたとあったが、高校生3名に意見を聞かれたことは素晴らしいと思う。今後も次代を担う若い世代の意見を聞き、計画が策定されるべきではないかと思う。

(D 委員)

この地域に来てから10年近くになるが、組長会に参加した時、自治会でどんな活動をしているか凡そ見えてきた。組長の仕事の半分以上が募金活動で、この募金が必要だろうかということもあった。組織は高齢の方が多し、人手が不足、活動内容の改善が図られていないという印象を持った。活動を見直すきっかけが与えられる取組みが必要ではないかと思う。

(E 委員)

前回の理念の末尾は「地域コミュニティの構築」という言葉だが、今期は「協働のまち鶴岡」となり、理念がより抽象化され、後退した印象を持った。もっと実効性があり、効き目がある鶴岡ならではの言葉、他とは違うニュアンスがほしい。全国どこでも当てはまるコミュニティ像ではなく、鶴岡だからこその言葉を作ってもらいたい。

今までの惰性でなく、より切実感を持って取り組まないと鶴岡は本当に駄目になる。励ましや刺激となる言葉が入っている必要がある。今期の理念は、以前と違う、市民に広く受けとめられる新鮮な言葉を探していかなくてはならないと思う。

(F 委員)

自治会の役員をしているが、同じ問題が起きており、高齢化、独居世帯が多くなり、皆でフォローしないと生活できないのではないかと心配になる。行政職員にも協力いただいたが、ご近所士の協力が必要であることも切実に感じる。

今回の基本理念は、前回の理念と比べるとふわっとしていると感じた。自治会の問題としては、役員を担う人がいなくても気にせず、1度やったからやらなくていいという人もいる。皆が関心を持てる自治会であれば、その自治会から地域に関心が持てるし、地域から鶴岡市全体に関心が持てると思う。ゼロから全部へ関心を持たせるのは難しいが、地元であるご近所から関心を持たせることが大切で、全体につながっていく。

(G 委員)

自治振興会で仕事をしている。地区でも地域ビジョンを作り、子どもたちが地元で愛着を持ち、進学等で東京、関東地方に行っても戻ってきたいまちづくりをしようと目標を立てた。愛着を持ってもらいたいが、意識改革をするのは難しい。10年程仕事をして地元に戻ると、地元の良さがわかる。若い時に都会に出ると都会が良くなるようで、戻ってきたいという意識づけが難しく、橋渡しができないもどかしさもある。自分も難しいと思うので、それを地域の人たちに伝えるは更に厳しいと思う。

(H 委員)

「地域へ誇りや愛着を持つ」の地域がどこを指すのか。自分の住んでいる町内会、それとも広域の小さい、例えば長沼地区、藤島地域のことを指すのか。どんなことに誇りや愛着を持つのかで地域の指し方が違う。

昨年度、一昨年度と2年間、藤島地域で小中一貫教育の議論をした。「郷土愛を持つ、ふるさとを愛する子どもたちを育てる」という文言が加わった。子どもたちがふるさとを連想する時、どの地域をふるさとにするのか。小中一貫校については、結論は出ており、子どもたちの郷土愛、ふるさとについて考えさせられた2年間だった。

今回の案の作成にあたって、参考にした考えの「組織運営を見直して持続可能な活動を展開する」「小規模な単位で組織のあり方を検討する」に注目した。先日、小規模町内会の役員から、次期

役員の担い手がいないと相談を受けた。その町内会には、高校生、中学生、小学生がおらず、20年経過したらどうなるかわからないと言っていた。

広域コミュニティ組織から各町内会に役員選出の依頼がくるが、町内会では負担になっている。組織の持続について真剣に考えなければならないと感じている。

#### (I 委員)

A 委員の言うように切羽詰まっている現状だと思う。地区の集落には、青年部、婦人会、若妻会、老人クラブなど6~7組織ある。人口減少に伴って活動を止める、組織を解散するという話もある。65歳以上で構成される老人クラブがあるが、農家で田んぼもあり、忙しくてほとんど加入できない。「地区の高齢者は、畑からまっすぐ介護施設」なんて話もあり、笑えない。

各集落が同じ状況のため、コミ推職員と鶴岡市社協から協力してもらい「地区の未来を考えるネットワーク交流会」ということで動き始めた。しかし、各集落の役員任期はほぼ2年で、次の人に交代してしまう。10年、20年に渡って継続できるように、組織をまず盤石なものにしないといけない。メンバーと話し合い、交流を図り、様々な話ができる地域にしたい。

#### (J 委員)

私の地域では3年ほど前に地域ビジョンを作り、若い世代からお年寄まで様々な意見をいただいた。基本理念、基本目標、テーマということで様々な意見を整理し、1つのものにするのは苦労した。様々な意見が出て結果的には抽象的になったが、柱立てをしなければならず、細かい意見は推進計画である活動計画に盛り込む形で計画の中に反映した。

今回の案も抽象的という意見もあるが、細かいことは今度策定される推進計画に活かしていただければいいと思う。

#### (委員長)

市役所内で担当が変わったり、地域の役員が変わっても、地域コミュニティについて議論したり、切羽詰まった切実な思いを共有するための提案をしたい。

総合計画のような綺麗な形に落とし込まず、アクションを表す基本理念に変えてもいいのではないか。地域の定義は様々で、単位とか隣組にするとガチガチすぎて出番がないという人もいると思う。子どもであれば夢を抱き、広い範囲でふるさと、郷土愛を思い描く。提案としては、「身近な地域活動に関心を持ってできることに取り組む」としたい。つながり、連携、協働が切実な問題だと思う。世代間交流をしながら、各家庭だけの議論にとどめず、周りの人たちと悩みを共有し、話せるような場づくり、コミュニティ組織と他の行政部署、社協、消防及び防災もあると思う。また、コミュニティ組織同士の連携、小規模であれば一緒に取り組むことや合併すること、広域コミュニティ組織に担ってもらおう等も含め、連携、協働は大事な概念だと思う。

総合計画、他の上位計画もあるので、皆が自分事と思えるアクションとして基本理念を変える提案をしたい。

#### (A 委員)

「地域に関心を持つ」ことを入れればいいと思う。「関心を持つ」のは、とても必要だと思う。

#### (I 委員)

身近な地域活動をやればやるほどお金かかる。町内会としてお金を集めないで立ちゆかない。私の住んでいる集落では1戸当たり、年間で2万5000円集めている。公民館組織や様々な活動を役員から行ってもらっているが、会費の集金に対して様々な声があがる。財源がないと伝統行事、それから地域の行事も行えない。最終的に金銭面の話にたどり着く。

#### (E 委員)

市街地とそれ以外の地域で会費徴収に差があるのは大きな問題だと思う。在の方では単身世帯が多く経済的な負担も大きいことにより、住みにくくなっていることも過疎化の一因だと思う。そういう現実に対して、この理念は余りにも隔絶している感じがする。

#### (委員長)

以前、鶴岡市から委託を受け、宮城大学とコミュニティの調査に入った。守ってきたお祭りだと

か環境整備なんかも役割分担していたので、地域が成り立っているようにとらえた。市街地と在の地域では状況が違うことも理解しているが、住民が高齢で役割を担えない地域もあった。代わりにお金を出し、皆が参加している形にしていた。ずっと切羽詰まっていたが、更に負担が難しいとか、負担感を感じて若い世代が移住していくということも実情としてある。

問題提起していただいたように、お金、人のことも含め、継続するのはどうかという話もある。また、組織の見直しについて、誰がいつどうやってすればいいのかということもある。すごく深い意味が案には含まれていると思っており、事務局も踏まえながら考えたと思う。

切羽詰まったところに地域コミュニティはあるので、各地域で大事にしてきたものを尊重し、各々の価値観、規範意識、つながり方、ルールなど尊重しながら計画を策定いただきたい。

(E 委員)

地域やコミ推関係の会議で、鶴岡地域の第1学区から第6学区までが属するコミュニティ組織協議会の会議と、斎地区から西郷地区の会議が別だと聞いている。藤島地域、櫛引地域の話も聞くが、関係が分からず、組織として分断されている印象がある。そういう背景があるのに、1つの理念としてまとめることには、無理や限界を感じる。多様な地域層があることに目を向けなければ、現実的な課題解決に足を踏み入れられないと思う。

(委員長)

鶴岡市全体としての計画や基本理念についての限界は当然あると思う。アクションとしては、合併から10年以上経過し、皆がそれぞれ現場で頑張っているが、切羽詰まった状態で第3期はどうするかということにきている。

(事務局)

事務局案について切迫感を感じてないとの発言もあり、しっかり受けとめていきたいと思う。E委員からも組織の形態によって差が生じているのに、組織全体を言及する計画はどうか、という投げかけもあった。問題意識は十分感じている。理念、計画を作るための議論が一番重要なので、意見を頂戴し、よりよい形にできればと思う。

(委員長)

基本理念と目指すコミュニティ像について、今年度は議論した。次年度は、具体的に内容をどうするかという議論になると思う。確定はいつになるか。

(事務局)

作業の手順として基本方針がある程度固まらないと次の推進計画にはいかないと考えている。基本方針と来年度策定になる第3期推進計画を1つにまとめ、完成としたいと考えている。

(E 委員)

最近のニュースでは、山形市が「ラーメンのまち」を銘打ち、「餃子のまち」もあつたりする。そのシンボルによって全国的にも知れ渡り、自分たちも分かり、他の地域でも分かる。鶴岡の誇りや市民のアイデンティティにつなげることができるかもしれない。シンボルとなる言葉が共有できれば、具体的な宣伝効果があり、地域が活性化され、全国的な関心が持たれ、自分たちの地域の誇りが生まれると思う。

(委員長)

鶴岡市全体の話なのでこの計画には落とし込みきれないが大事な意見であり、また、このコミュニティ推進計画の基本理念においても合言葉のように取り出せるフレーズとして、まちのシンボルは大事だと思う。

(2) 市のコミュニティ施策について、各地域の取組み状況について資料No.2～No.6

(事務局)資料No.2～No.6 について説明

(E 委員)

まちづくり未来事業では、鶴岡全体で約 1000 万円以上の予算がある。旧町村地域にはこのような予算は講じられているのか。

また、鶴岡地域では、竹チップパー、大判焼き製作機などを購入している。大事なのは購入以降の取組みで、人口減少等に立ち向かう施策につながるかという検証でないかと思う。今年度だけの報告に限らず 1、2、3 年後に地域の活性化につながっているかが問われていると思う。

(事務局)

鶴岡地域は、各広域の組織から申請してもらい、審査し補助金を交付している。旧町村地域の場合は、地域庁舎エリアで事業を予算化している。

各地区とも目指すところがあり、どんな取組みが有効か議論している。湯田川地区の場合は地域資源である孟宗を活用し、取組みを展開していただいた。目標や目的について、地域で考え取り組まれたので、市としても注目していきたい。

(C 委員)

地区によって交付決定額に大分差がある。限度額は幾らで設定されているのか。また、申請したが趣旨にそぐわず、却下された事例があれば件数を教えてもらいたい。

(事務局)

補助金の制度上、上限は設定していない。6 年度予算は 2000 万円の補助金を計上しており、予算の範囲内で補助をすることとなっている。今年度は 7 件で 2000 万円の枠に収まっている。

また、申請の却下は実績がなく、交付金額において減額しているケースはある。各地区で申請内容について検討していただいております、市でも内容について確認している。

(E 委員)

第 6 学区の紹介に子ども食堂の開設準備とある。未来事業の予算でやるべきことなのか。担当する部、課で支援すべきではないかと思う。

(J 委員)

第 6 学区は、高齢者が多いエリアと新興住宅地があり、学区内で課題が違う。高齢者が多いエリアで空き家を利用して集える場所をつくれなにかと考えた。まちづくり未来事業を活用し空き家を改修し、「はろ〜くらぶ」を作った。その後、地域ビジョンを策定し、実現のために活用させてもらっている。

子ども食堂についてはワークショップを行い、7 月あたりから開催できるかと思う。継続した事業とするためには、自前で財源を確保しなければならないので検討中である。子ども食堂の開催場所は、コミセンで行うことを想定している。

一番の課題は人力である。お金はフードバンクで手配し、全県的にも予算、補助金制度があるが、協力できる人を集めることが重要かと思う。

(C 委員)

鶴岡地域と旧町村地域でコミュニティセンター、地域活動センターと名称がまちまちなので、名称の統一も重要でないかなと思う。

また、E 委員がまちのシンボルについて述べられた。県内 35 市町村のうち、ゆるキャラ認定されていない市町村は 4 つあり、鶴岡市もその 1 つである。熊本のくまモンは大変な経済効果があり、観光にも影響がある。鶴岡市にも、クラゲ、天神祭の化け物、羽黒の山伏など素材はたくさんある。

(3) その他

特になし

4 閉会

(市民部長)